

記入例

別紙 1

ば い 煙 発 生 施 設 の 構 造

工場又は事業場における施設番号		1号機	2号機
名 称 及 び 型 式		○×工業(株)製 M Y - K ○ ○	○×工業(株)製 N C - Y U × ×
設 置 年 月 日		○○年△△月××日	○○年△△月××日
着 手 予 定 年 月 日		○○年□□月××日	○○年□□月××日
使 用 開 始 予 定 年 月 日		○○年■ ■ 月 × × 日	○○年■ ■ 月 × × 日
規 模	伝 熱 面 積 (m ²)	2 9 5	9 . 6
	燃 料 の 燃 焼 能 力 (重油換算 I/h)	1 , 6 0 0	1 0 3 . 6
	原 料 の 処 理 能 力 (t / h)	—	—
	火 格 子 面 積 又 は 羽 口 面 断 面 積 (m ²)	—	—
	変 圧 器 の 定 格 容 量 (K V A)	—	—
	触 媒 に 付 着 す る 炭 素 の 燃 焼 能 力 (k g / h)	—	—
	焼 却 能 力 (k g / h)	—	—
	乾 燥 施 設 の 容 量 (m ³)	—	—
	電 流 容 量 (K A)	—	—
	ポ ン プ の 動 力 (K W)	—	—
合 成 ・ 漂 白 ・ 濃 縮 能 力 (k g / h)	—	—	

備考

1. 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
2. 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。
3. ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本産業規格A4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

記入例

ばい煙発生施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号		1号機			2号機		
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	8時～17時 9時間/回 1回/日 25日/月			8時～17時 9時間/回 1回/日 25日/月		
	季節変動	なし			冬のみ使用		
原材料(ばい煙の発生に影響のあるものに限る。)	種類						
	使用割合						
	原材料中の成分割合(%)	いおう分 カドミウム分	鉛分 弗素分		いおう分 カドミウム分	鉛分 弗素分	
	1日の使用量						
燃料又は電力	種類	A重油			灯油		
	燃料中の成分割合(%)	灰分 0.01	いおう分 2.0	窒素分 0.09	灰分 0.01	いおう分 0.97	窒素分 0.27
	発熱量	42,490 Kcal			42.71 MJ/Kg		
	通常の使用量	1,370 kg/H			62.2 L/H		
	混焼割合	専焼			専焼		
排出ガス量(Nm ³ /h)	湿り	最大18,900	通常18,900以下		最大1307	通常784	
	乾き	最大16,470	通常1,6470以下		最大1189	通常713	
排出ガス温度(℃)		225			280		
排出ガス中の酸素濃度(%)		2.25			4.0		
ばい煙の濃度	ばいじん(g/Nm ³)	最大 0.25	通常0.25以下		最大 0.10	通常 0.10	
	いおう酸化物(容量比ppm)	最大 1187	通常1187以下		最大 503	通常 503	
	カドミウム及びその化合物(mg/Nm ³)	最大 —	通常 —		最大 —	通常 —	
	塩素(mg/Nm ³)	最大 —	通常 —		最大 —	通常 —	
	塩化水素(mg/Nm ³)	最大 —	通常 —		最大 —	通常 —	
	弗素、弗化水素及び弗化珪素(mg/Nm ³)	最大 —	通常 —		最大 —	通常 —	
	鉛及びその化合物(mg/Nm ³)	最大 —	通常 —		最大 —	通常 —	
	窒素酸化物(容量比ppm)	最大 150	通常150以下		最大 154.9	通常 154.9	
ばい煙量	いおう酸化物(Nm ³ /h)	最大 19.2	通常19.2以下		最大 0.598	通常 0.598	
参考事項							

備考

1. 原材料中の成分割合(%)の欄及び燃料中の成分割合(%)の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。
2. ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
3. ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
4. 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法等を記載するほか、ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用(専ら非常時において用いられるものをいう。)の別を明らかにすること。

記入例

ばい煙の処理の方法

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号			1号機	2号機
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号			201	202
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式			排ガス煙突	排ガス煙突
設置年月日			〇〇年△△月××日	〇〇年△△月××日
着手予定年月日			〇〇年□□月××日	〇〇年□□月××日
使用開始予定年月日			〇〇年■■月××日	〇〇年■■月××日
処理能力	排出ガス量 (Nm ³ /h)	最大	18,900	708.6
		通常		424.6
	排出ガス温度 (°C)	処理前	225	190
		処理後	225	190
	ばいじん (g/Nm ³)	処理前	0.25	0.1
		処理後	0.25	0.1
	いおう酸化物 (容量比ppm)	処理前	1,187	444.3
		処理後	1,187	444.3
	カドミウム及びその化合物 (mg/Nm ³)	処理前	—	—
		処理後	—	—
	塩素 (mg/Nm ³)	処理前	—	—
		処理後	—	—
	塩化水素 (mg/Nm ³)	処理前	—	—
		処理後	—	—
	弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/Nm ³)	処理前	—	—
		処理後	—	—
	鉛及びその化合物 (mg/Nm ³)	処理前	—	—
		処理後	—	—
	窒素酸化物 (容量比ppm)	処理前	150	110
		処理後	150	110
ばい煙量	いおう酸化物 (Nm ³ /h)	最大	処理前 19.2	0.286
		通常	処理後 19.2	0.286
		最大	処理前 19.2以下	0.172
		通常	処理後 19.2以下	0.172
捕集効率 (%)	ばいじん	0	—	
	いおう酸化物	0	—	
	カドミウム及びその化合物	—	—	
	塩素	—	—	
	塩化水素	—	—	
	弗素、弗化水素及び弗化珪素	—	—	
	鉛及びその化合物	—	—	
	窒素酸化物	0	—	
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	8時～17時 9時間/回 1回/日 25日/月	8時～17時 9時間/回 1回/日 25日/月	
	季節変動	なし	冬のみ使用	
排出口の実高さ H _o (m)			30	15.65
補正された排出口の高さ H _e (m)			38.96	15.65
排出速度 (m/s)			8.10	1.70

備考

1. 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
2. ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
3. 補正された排出口の高さ H_e は、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定すること。
4. ばい煙処理施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図を添附すること。